

『いとみち 1~3』 越谷 オサム/著 新潮社



高校一年生の女の子いとが人見知りで引っ込み思案な性格を直したいと思って始めたバイトはなんと「メイド喫茶」！ こ〜い津軽弁のいと「いらっしやいませ、ご主人様」は必読です。方言って文字におこすとあんなことになるのですね。優しい店長、バツイチ年齢詐称メイド長、クリクリお目々の漫画家志望自称エースメイド、ドミたいなオーナーなど、個性的なスタッフに囲まれて、いとはどんどん成長していきます。うっかり三味線までメイド喫茶で演奏することになってしまって…一度読んだら応援せずにはいられません。果たしていと「いらっしやいませ、ご主人様」を標準語で言えるようになるのでしょうか！？

『ゼロ！』 片野 ゆか/著 集英社



飼い主に見捨てられ、行き場を失った犬や猫たちは、保健所で殺処分をされる。それは安楽死などではなく、炭酸ガスの充満した部屋でおびえ苦しみがら窒息死していくのだ。「こぎゃんことが、あってよかと！」動物たちを救いたい。そんなシンプルで力強い思いと「殺処分ゼロ」を目標に立ち上がったのは、熊本市動物愛護センターの職員たちだった。動物たちの命を救うため奮闘する公務員たちを追った、ノンフィクション。

『黒い兄弟 上・下』 リザ・テツナー/著 酒寄 進一/訳 あすなろ書房



昔、実際にあった子供の売買から生まれた物語です。イタリア・ミラノの煙突掃除夫に売られたスイスの貧しい農民の子供達は、熱を持つススだらけの煙突に潜って掃除をする過酷な仕事に従事していました。彼らは秘密結社「黒い兄弟」を組織し、故郷へ帰ることを目標に、仲間との絆を心の支えとして過酷な境遇を生き抜いていきます。しかし、次々と困難と悲しい出来事が彼らに襲い掛かって…。逆境に負けず、希望を捨てない子供達の強さに圧倒されます。

『2.43 清陰高校男子バレー部』 壁井 ユカコ/著 集英社



東京から来たワケあり天才セッターと、楽な方に流れる心弱きエースアタッカーの1年生コンビ。中学時代の確執を引きずったまま進学した清陰高校で待っていたのは、弱小男子バレーボール部！ 頼もしいけれど身長が足りない主将と、生徒会所属の切れ者副主将、そして個性的な先輩たち。衝突し、悩み、築きあげた信頼と友情を力に、地方バレー男子たちが目指すは春高全国大会！ 懸命な彼らを見ていると、バレーボールを詳しく知らなくても心が熱くなります！

所沢市立所沢図書館新所沢分館 図書館だより  
読むトコ【ティーンズ版】増刊号 vol.1  
〈ブックリスト〉

# Zelkova

【ゼルコバ】

新所沢にけやき並木があるの知っていますか？  
「ゼルコバ」はけやきのことだよ。



『吉野北高校図書委員会 1~3』

山本 渚/著 KADOKAWA メディアファクトリー



気の合う男友達の大地と大好きな後輩あゆみが付き合いだした。「彼女なんて作らない」と言っていたのに。図書委員会で二人に接するうちに、かずらは大地に対する自分の中の微妙な気持ちに気付く。一方、かずらの友だちの高広は、大地への気持ちにふたをするかずらへの想いが抑えきれず、苦悩していた…。

かずらを囲むステキな仲間達と、それぞれの微妙な恋心がとてもよく描かれていて、読んでいると一緒に胸がキュンと痛くなります。優しい気持ちになれる本です。

『世界一素朴な質問、宇宙一美しい答え』

ジェンマ・エルウィン・ハリス/編 西田 美緒子/訳 河出書房新社



小学生たちからの100の質問に、各分野における世界の第一人者が答えるというコンセプトで作られたこの本の特筆すべき点は、本のタイトルにもなっているように「宇宙一美しく」回答がなされているということ。読んでみればわかるが、子どもが抱く疑問というのは逆に答えるのが難しいくらいに素朴なものが多い。「こんなこと考えたこともなかった！」というのがほとんどだ。しかし、そこはさすが第一人者。子どもにもわかるように端的に、かつおもしろおかしく回答させている。でもこれはあくまでも回答例のひとつ。自分ならどうやって答えるかを考えてみるのも本書の別の楽しみ方だ。

『夏目漱石、読んじゃえば?』 奥泉 光/著 河出書房新社



『ころ』『吾輩は猫である』『草枕』『坊ちゃん』…。これらは、文豪夏目漱石の作品のタイトル。聞いたことはあるけれど、読むのはちょっと…という人は、まずはこの本を読んでみて。芥川賞作家で『吾輩は猫である』殺人事件』という作品を描いている奥泉光氏が漱石本の読み方をレクチャーしてくれます。「小説は全部読まなくてもいい」「先入観を捨てて…」「傑作だなんて思わなくていい」など彼の読書に対する持論に目からウロコが落ちるかも。

読書とは、と堅苦しく考えず、自分なりに楽しめばよいのだと思わせる一冊。

『空色バウムクーヘン』 吉野 万理子/著 徳間書店



主人公、若葉の夢はお笑い芸人。高校に入学したら相方をみつける計画だったのに、交換条件でなんとウエイトリフティング部に入るはめに。すぐに辞めるつもりが、いつしか競技にはまっていく若葉。人生は思い通りにはいかないけれど、つらいことばかりじゃない。予想もしていなかった楽しいことに出会うこともあるし、何にも代えがたい大切な人たちとの出会いもあるから面白い。読み始めると、華奢でアイドル系の若葉とウエイトリフティング一筋の弥生という、相反するコンビから目が離せなくなること請け合いです。

『僕は長い昼と長い夜を過ごす』 小路 幸也/著 早川書房



主人公のメイジ君は50時間起きて20時間眠るという特異体質。ある日、引き受けたバイトがもとで、とんでもない事件に巻き込まれ命まで狙われます。メイジ君に助けの手を差し伸べる謎の人物は、果たして本当に味方なのか？徐々に明かされていく謎。大切な人たちを守るため、知恵と友情で立ち向かうメイジ君にタイムリミットがせまります。

『ヒトラーのむすめ』 ジャッキー・フレンチ/作 さくまゆみこ/訳 鈴木出版



戦争について考えたことはありますか？授業の一環で戦争について調べたことがある人は多くいると思います。では、

「戦争について想像したことはありますか……？」

学ぶことと想像することはこんなにも違うのです。もし戦争をしている国に生まれたら、あなたには何ができますか？

このブックリストは、所沢市立向陽中学校学校司書、所沢市立美原中学校学校司書、所沢市立所沢図書館新所沢分館司書が

選んだ **中学生のみなさんへ今おすすめする本のリスト**です！

気になる本をみつけたら、ぜひ学校図書館、市立図書館に足を運んでみてください。お待ちしております！！

Zelkova[ゼルクバ]作成委員会 2015/10/15 発行

『14歳の水平線』 椰月 美智子/著 双葉社



14歳の息子との接し方がわからないシングルファーザーの作家が、夏休みに故郷である「神様の島」にいったことから物語は始まり、30年前に14歳だった自分の夏の思い出と交錯し話は進んでいく。

一方、島で出会った同じ歳の少年5人と過ごしていくうちに、14歳の少年は思春期特有の殻から次第に抜け出し、精神的に大きく成長していく。サッカー部の鼻持ちならない少年3人と、メガネとデブと脱落者3人の、個性豊かな6人が自然豊かな信仰深い島で過ごす姿は清涼感があって気持ちが良い。

『火星の人』 アンディ・ウィアー/著 小野田 和子/訳 早川書房



火星に到着した探査チームを猛烈な砂嵐が襲います。脱出途中、事故でたったひとり火星に取り残されたワトニーは、残された物資を利用して、ジャガイモの栽培を思いつきます。絶望的な状況でも絶対あきらめない根性と豊富な知識で、必要なものを次々に作り出してゆくところに感服です。不毛の惑星でただひとり、救助が来るまで持ちこたえることができるのか、最後まで手に汗握る展開が続きます。

『ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。』



マララ・ユスフザイ/述 石井 光太/文 ポプラ社

私たちはなぜ、学校に行くのでしょうか。誰も一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。では逆に、世界にはなぜ学校に行けない子どもたちがいるのでしょうか。また、暴力ではなく、自分の気持ちを相手にきちんと伝えるためにはどうしたらいいのでしょうか。一見、全く関係ないような問いですが、実はすごく関係があるんです！パキスタンの少女、マララ・ユスフザイさんの国際連合の演説をもとに、この三つの問いの関係や、学校に行く意味、勉強をする意味をもう一度考えてみませんか？

『キケン』 有川 浩/著 新潮社



成南電気工科大学機械制御研究部(通称キケン)の部員はかなりのつわものぞろい。何やら危ないものを作っては、あちこちでトラブルを巻き起こします。

そんな彼らが学祭で「奇跡の味」ラーメンをひっさげてバトルを繰り広げるところは、ページをめくる手が止まらなくなります。

ばかばかしいことを知恵とチームワークを駆使して大真面目に全力投球する！これぞ、まさしく青春！！この本を読んで、君も一緒に熱くなる。